

生駒市農業ビジョン推進懇話会 第8回会議録 (要点筆記)

- 1 開催日時 平成29年10月16日(月)午後2時00分～午後3時30分
- 2 開催場所 生駒市役所 4階403・404会議室
- 3 参加者 相川氏 池上氏(座長) 石丸氏 井上氏(副座長) 上武氏 高枝氏 田中氏 中世古氏
中田氏 中村氏 松井氏 (五十音順)
- (事務局) 岡田経済振興課長 巽経済振興課長補佐 高橋農林係長 長田農林係員

4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし

- 5 議題 (1)平成29年度の取組について
- ・生駒市農業ビジョンの進捗状況報告及び今後について
 - ・農家・飲食店のアンケート調査について
- (2)第36回農業祭について
- (3)その他

6 審議内容

(1)平成29年度の取組について

座長 今年度農業ビジョンは終わりを迎えるが、軽微な変更で対応しようと事務局は考えている。次回その件で、ご意見いただきたい。今回の報告の中でご意見・ご質問があるか。新規就農者18名という数字は、単年度の人数か。

事務局 平成23年度から新規就農する人がいて今までの合算である。また18名ではなく、農業法人を含めて21名の誤りで、現在はその内2名は実際耕作していない状況である。

座長 有害鳥獣の捕獲実績が多いことに驚いた。アライグマの捕獲には地域的な偏りはあるのか。

事務局 市内全域で捕獲実績がある。

座長 イノシシの捕獲は猟友会にお願いしているのか。

事務局 はい。

座長 おちやせんとはどのようなものか。また、名前の由来は。

事務局 生駒の駅前にあるアンテナショップで、名前は高山茶釜が由来である。

座長 昔、高山の方の竹林の問題に対応していたことがある。竹の活用方法を考え、当時は壁に竹粉を混ぜたり、竹炭にして川に流して河川浄化するくらいのもだった。高山の竹林の現在の状況はどうなっているのか。

参加者 時々整備をしてもらっているが、増えている。農地にも侵入してくる。

参加者 竹炭に関しては、大阪のNPO法人が入って対応している。長期で10年近く孟宗竹を主体にして販売している。

座長 竹林の対応に関して、農業ビジョンに追加することを考えてもいいと思う。

参加者 基本目標に新規就農者の支援とあるが、既存の意欲のある農業者への補助制度はあるのか。なければ検討する必要があるのではないか。

座長 黒大豆に対する補助金はその内の一つであると思うが、農家区などに対する施策はあるか。

- 事務局 今は価格補償などにとどまっているが、有害鳥獣対策として、地域で取り組んだ場合に関する補助の充実を考えている。但し遊休農地の減少のためには、新規就農者を呼び込むことが必要であることのご理解をいただきたい。
- 参加者 農協と市が斡旋していく必要があると思う。特産品化の取組も必要で、買い取りすることによって活性化を図ることができる。新たな農作物への取組について既存農家と新規就農者に発信してほしい。
- 事務局 黒大豆がなぜ特産品化を図る農作物として選定されたのか、地元農業者に聞いたことがあるが、生駒で作りやすかったからではないかとのこと。手がかからなく、良い農作物があれば教えてほしい。
- 座長 ベンチャー農業のようなところに公的な出資ができる仕組みがあれば良いと思う。最初の資金があることは大切である。
- 参加者 情報発信は、ホームページだけにとどまっているのか。まだパソコンに不得手の人もいて、そういった人への発信について、ホームページ以外でしていないのであれば他の媒体も考える必要がある。
- 事務局 イベントなどの情報は広報でお知らせしている。ただ、農業者への補助金制度については、農家区の回覧文書やホームページで知らせている。
- 座長 ケーブルテレビでイベントの情報発信はしていないのか。
- 事務局 声をかけて、興味を持ってもらえれば発信してもらえと思う。検討したい。
- 副座長 市民農園は空きがあるが、遊休農地活用事業を利用したい人の状況はどうか。
- 事務局 農地の場所や水利などの条件が合わず空きとなっている土地はあるが、利用をしたいのに待っている人はいない。
- 参加者 遊休農地活用事業の草刈などの耕作導入支援を活用している人は多くいるのか。周りでは知らない人もいるが、どういった方法で案内をしているのか。
- 事務局 これまでに数名はいる。新規で借りる時が対象となるため、その時に制度の案内をしている。
- 座長 遊休農地活用事業の貸出登録農地が昨年と比較して 8 筆減っているが、理由は何か。
- 事務局 宅地に転用するためであったり、利用者の管理不十分のため返却してもらい自分で耕作するためという理由がある。
- 参加者 新規就農者に対する設備投資資金補助は、どういう方法で情報提供しているのか。
- 事務局 新規就農者で、旧青年就農給付金を受ける人が対象となるため、個々に対応している。計画を作成し、認定を受けた人に上限 50 万円で 1 回限りの補助をしている。
- 座長 なかなか認定をとれるような人がいない。
- 事務局 給付金を受けても、最終的に離農される人が多く、平成 29 年度から制度が変わり要件が厳しくなっている。ただ今年度新規にこの給付を受けて就農を考えている人は何人かいる。
- 参加者 いのししの件であるが、年間平均 80 頭は獲れている現状でジビエ活用することは厳しいのか。
- 事務局 ジビエール五條に視察に行ったことがあるが、80 頭では少ないということである。五條市では 1000 頭を超える捕獲があるが、その中でもお肉に加工できるのは半分ほどである。止め刺しをした後、2 時間以内に処理しないといけないなど厳しい基準がある。また安定的に

供給できるのか。消費についても、価格は他の食肉と比較して高くなり需要があるのかという課題がある。

座長 ジビエ活用は難しい課題が多くある。市は一次加工でストックするだけ、県全体で二次加工するところを設備すると変動をならすことができると思う。市だけでは難しいかもしれない。
次回に現農業ビジョンへの追加・修正のご意見をお願いしたい。

事務局 農家・飲食店へ向けたアンケートを11月中下旬頃に送付できればと考えている。集計が終わり次第、懇話会にて結果を報告する。

座長 今月中に本日示されたアンケート案に追加・修正していただければということであるが、何かご意見はあるか。

参加者 対象の農家はどのように選定するのか。

事務局 農家台帳に記載のある農家から無作為抽出して、市から直接送付する予定である。

参加者 抽出する地区を考えて選定する必要がある。

事務局 規模別・地区別で選定するよう考えている。

参加者 問3については面積を②10a以上～30a未満にしているが、何か考えがあつてのことか。生駒市の農家要件の20aで区切ることを検討したらどうか。
問7に農業法人に貸し出すという選択肢を追加したらどうか。農地を売りたいくないので貸すのなら良いという農家もいるはずである。アンケートを行うにあたって、どういう目的で行うのかをはっきりした方がよい。

参加者 農業の農地の問題よりも、農業の業のほうのデータ、つまりどういう生産をして市内の店舗に出荷していったらいいのかなどを集計したいのか。

事務局 農業の業が主になるが、基礎的な農地のことも把握したい。

参加者 アンケートの目的をはっきりしてほしい。また他市にも同じようなデータがあれば、アンケート結果を比較してほしい。農地をどういった方向に導いていくのかのデータとることができることが最良である。

座長 農業生産を主にするならば、都市的なことは外していいかもしれないが、農業全体で考えると農地のことも聞くべきであるため、折衷すると良い。
専門的な言葉になっていることが気になる。農業経営耕地面積とは何を指すのか。持っている農地を指すのか。所有者が実際に耕作している農地なのか。面積が過少報告になる可能性がある。普通は所有・貸出・借入を表にする。正確に数値を把握したいなら、言葉の説明が必要である。
問8の①農道等のインフラ整備という言葉は、農道等の基盤整備という言葉に変えた方がよい。また、地産地消の意味も農業者は分かるだろうか。地元で作って地元で売るといふ言い方に変えるとよい。問11を選べば、地産地消に取り組んでいることになるため、問9と問11の内容が似通っているように思う。
飲食店のアンケート対象者はどうやって選定するのか。

事務局 商工会議所の会員となっている市内の飲食店を対象に選定する予定である。

(2) 第36回農業祭について

座長 出店について、ご意見いただきたい。

副座長 当懇話会では、農業祭実行委員会や農業委員会などで出店するメンバーが多いため、人を集めることが難しいのではないかと。

座長 今年度は見送って、来年に向けて検討するという事で良いか。

参加者 はい。

(3) その他

事務局 次回の懇話会の開催は、1月中下旬頃を予定している。